

令和3年度 第4回広島市感染症対策協議会

【日 時】 令和3年9月22日（水）19:00～20:00
【場 所】 広島市役所 14階第7会議室
【出席者】 小林 正夫、坂口 剛正、大毛 宏喜、吉岡 宏治、高橋 宏明、
佐藤 貴、増田 裕久、長岡 義晴、岡野 里香、南 心司

1 感染症に関する最近の情報

（1）新型コロナウイルス感染症に係る対応等について（資料1 P1～26）

広島県において、緊急事態宣言は当初9月12日までであったが、新規陽性者数が多い状況であることや、感染の再拡大が起これば、医療崩壊する恐れがあることなどから、国に対し、緊急事態宣言の延長を要請し、9月30日まで延長された。また、全国においても、9月12日までとなっていた21都道府県に対する緊急事態宣言について、東京都や大阪府など19都道府県で9月30日まで延長された。

本市の感染状況についても、1日の新規陽性者数が8月20日に過去最多の205件となるなど8月下旬がピークであり、その後は減少に転じているが、依然として高い水準で推移している。

本市においては、引き続き、市民に対して感染予防等の啓発を行うとともに、広島県等と連携して感染拡大防止に向けた取り組みを推進していく。

（委員意見）

- ・ 新規陽性者数の減少に向けて、引き続き関係機関と連携して対策を行ってほしい

（2）新型コロナウイルスワクチン接種について（資料1 P27～33）

新型コロナウイルスワクチンについて、本市は、1回目の接種から3週間を超えてもなお2回目の接種を受けることができていない方が、できるだけ速やかに接種を受けられるよう、専用の予約枠を設けた。

本市における新型コロナワクチン接種状況（9月14日現在）について、全体では、1回目接種率が62.3%、2回目接種率が48.3%となった。年代別接種率は、65歳以上は1回目接種率が86.7%、2回目接種率が84.9%と高い一方、年代が低くなるにつれ、接種率は低くなっている。

10歳代から30歳代の接種率の向上を図るため、既存の接種会場において、新たに接種日を追加し、若者専用会場として開設するとともに、若者専用予約枠の設置や夜間帯での接種の実施を行うこととした。また、新設する接種会場においても、若者専用予約枠を設けるとともに、夜間帯での接種を行うこととした。

（委員意見）

- ・ さらなる接種率の向上に向けて、接種の促進に努めてほしい

（3）令和2年結核登録者情報調査年報集計結果について（資料1 P34～70）

厚生労働省は令和2年の結核登録者情報調査年報集計結果について公表した。

集計結果によると、令和2年の全国の結核新登録患者数は前年（令和元年）より1,721

人（11.9%）減少の12,739人となり、罹患率（人口10万人対）は、前年より1.4ポイント（12.2%）減少し、10.1となった。年齢階級別では、0～14歳の小児結核は52人で前年から14人（36.8%）の増加となった。15歳以上の年齢階級では全て減少となり、前年増加となった90歳以上でも228人（11.6%）の減少となった。各年齢階級別で全体に占める割合は、80～89歳が28.9%と最も多く、90歳以上でも13.7%となっており増加傾向は続いている。

（委員意見）

- ・ 広島市の罹患率は全国より低い値であるが、さらなる低下に向けて、引き続き対応にあたってほしい

2 8月の定点把握対象感染症発生状況《公開》（資料2、3）

※感染症法に定められた感染症のうち、指定された医療機関のみが報告を行う感染症

3 全数把握対象感染症の発生状況《公開》

区分	病 名	令和3年8月分	令和3年9月分
		報告日 8/2～9/5	報告日 9/6～9/15 現在
2類	結核	4人 (結核3人、潜在性結核1人)	
3類	腸管出血性大腸菌	3人 (8/26 (2人)、8/30)	
4類	レジオネラ症	4人 (8/20、8/28、8/31、9/2)	1人 (9/6)
5類	アメーバ赤痢		1人 (9/10)
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1人 (8/5)	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症		1人 (9/15)
	後天性免疫不全症候群	1人 (8/10)	1人 (9/13)
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1人 (9/1)	
	侵襲性肺炎球菌感染症	2人 (8/4、8/5)	
	梅毒	15人 (8/2、8/4、8/5、8/12、8/13、8/18、8/23(3人)、8/24、8/30(2人)、9/1、9/2(2人))	2人 (9/6、9/7)
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1人 (8/11)	
新型インフル	新型コロナウイルス感染症	3, 883人	618人

() は届出日

4 その他《公開》

次回開催予定日 令和3年11月15日(月) 14階第7会議室

【資料】

資料1：最近の感染症情報

資料2：8月の感染症の概要

資料3：定点把握五類感染症(月報対象)の長期的変動

広島市感染症対策協議会コメント（9月分）

令和3年9月22日

1 患者情報

(1) 概要

定点からの内科・小児科・眼科系疾患の患者報告数は、8月は805人で、前月比0.71とやや減少した。ヘルパンギーナは大きく増加、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎はやや増加、突発性発しんはほぼ横ばい、感染性胃腸炎はやや減少、咽頭結膜熱、RSウイルス感染症は減少した。

(2) 特記事項

- 新型コロナウイルス感染症は、広島市では7月下旬から急速に拡大し、1日の新規感染者数は過去最多の205件（8月20日発表）を記録した（図1）。その後、減少に転じたものの、依然として高い水準で推移していたことなどから、広島県は、9月12日までの期間で発令されていた緊急事態宣言の延長を国に要請し、9月30日まで延長された。

新規感染者の傾向は、5月の波と比較すると60歳以上の割合が減少している一方で、20歳未満の割合は増加している（図2）。

今後、感染を確実に抑え込むためには、マスク着用、手洗い、人との距離の確保、換気などの基本的予防対策のほか、外出の半減、出勤者の削減、飲食の場面での対策の徹底、他地域への移動の自粛、感染者の早期発見と隔離などの対策が重要である。

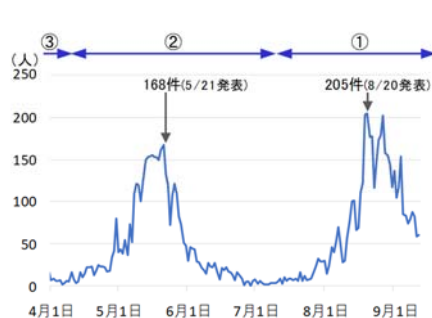


図1 新規感染者数の推移(広島市)

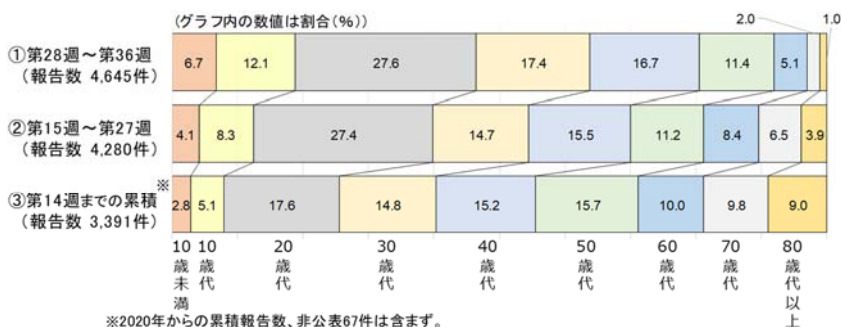


図2 新規感染者の年齢割合の推移(広島市)

- 例年、乳幼児を中心に5月頃より増加し始め7月頃にピークを迎えるヘルパンギーナが、今年は8月下旬から増加している。感染経路は接触感染を含む糞口感染と飛沫感染であり、手洗いの励行、オムツの適切な処理などの感染予防対策を徹底することが重要である。
- 梅毒は、8月に15件の報告があり、累計50件（昨年同時期41件）となった。治療せずに放置すると、時に無症状になりながら進行し、長期間の経過で脳や心臓に重大な合併症を起こすこともある。感染が疑われる場合は早期に医療機関を受診し、パートナーなど周囲で感染の可能性がある人も検査を受け、治療を行うことが重要である。

(3) 8月の1類～5類感染症（全数報告）患者発生数

- 1類感染症：なし
- 2類感染症：結核 4件（患者：3件、潜在性結核：1件）
- 3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 3件
- 4類感染症：レジオネラ症 4件
- 5類感染症：クロイツフェルト・ヤコブ病 1件、後天性免疫不全症候群 1件
侵襲性インフルエンザ菌感染症 1件、侵襲性肺炎球菌感染症 2件
梅毒 15件、バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1件
- 新型インフルエンザ等感染症：新型コロナウイルス感染症 3,883件

(4) 今後の流行予測

ヘルパンギーナ・・・・・・【流行始まり】 RSウイルス感染症・・・・・・【流行終息傾向】
新型コロナウイルス感染症の発生動向に注意が必要である。

2 検査情報

8月の検査結果判明分

臨床診断名	検出病原体	検体採取月	患者数
感染性胃腸炎	アデノウイルス 2 型	6 月	1 人
流行性角結膜炎	アデノウイルス 53 型	3 月	1 人
その他の呼吸器疾患（気管支炎）	パラインフルエンザウイルス 3 型	7 月	1 人
その他の消化器疾患（腸重積症）	アデノウイルス 31 型	2 月	1 人
	アデノウイルス 2 型	6 月	1 人
その他の疾患（不明熱）	パラインフルエンザウイルス 3 型	6 月	1 人

(2) 特記事項

6 人の患者から 4 種類のウイルス 6 株が検出された。検出ウイルスの内訳は、アデノウイルス 2 型、パラインフルエンザウイルス 3 型各 2 株、アデノウイルス 31 型、同 53 型各 1 株であった。

5類感染症定点情報
(令和3年8月解析分)

1. 週報対象(第31週～第35週)

No.	疾患名	発生 記号	報告数	定点 当たり	今後の 予測	No.	疾患名	発生 記号	報告数	定点 当たり	今後の 予測
1	インフルエンザ		1	0.03		10	流行性耳下腺炎		1	0.04	
2	咽頭結膜熱		15	0.63		11	RSウイルス感染症		393	16.54	
3	A群溶血性レンサ 球菌咽頭炎		43	1.80		12	急性出血性結膜炎		-	-	
4	感染性胃腸炎		210	8.80		13	流行性角結膜炎		10	1.27	
5	水痘		8	0.33		14	細菌性髄膜炎		-	-	
6	手足口病		20	0.84		15	無菌性髄膜炎		-	-	
7	伝染性紅斑		-	-		16	マイコプラズマ肺炎		-	-	
8	突発性発しん		35	1.47		17	クラミジア肺炎		-	-	
9	ヘルパンギーナ		50	2.08		18	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)		-	-	

2. 月報対象(8月)

No.	疾患名	発生 記号	報告数	定点 当たり
1	性器クラミジア感染症		61	6.78
2	性器ヘルペス ウイルス感染症		1	0.11
3	尖圭コンジローマ		7	0.78
4	淋菌感染症		26	2.89
5	メチシリン耐性黄色 ブドウ球菌感染症		17	2.43
6	ペニシリン耐性肺炎 球菌感染症		2	0.29
7	薬剤耐性 緑膿菌感染症		-	-

発生記号

前月と比較しておおむね 1:2以上の増減		
前月と比較しておおむね 1:1.5～2の増減		
前月と比較しておおむね 1:1.1～1.5の増減		
ほぼ横ばい(発生件数少 数のものを含む)		

予測記号

流行始まり	
流行中	
流行終息傾向	
終息	

全数把握感染症報告数(令和3年8月分)

第31週～第35週(8月2日～9月5日)報告分

類型	疾患名	広島市		全国	
		報告数	累積	報告数	累積
一類	1 エボラ出血熱	-	-	-	-
	2 クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-
	3 痘そう	-	-	-	-
	4 南米出血熱	-	-	-	-
	5 ベスト	-	-	-	-
	6 マールブルグ病	-	-	-	-
	7 ラッサ熱	-	-	-	-
二類	8 急性灰白髄炎	-	-	-	-
	9 結核	4	57	1,351	10,390
	10 ジフテリア	-	-	-	-
	11 重症急性呼吸器症候群	-	-	-	-
	12 中東呼吸器症候群	-	-	-	-
	13 鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-
	14 鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-	-
三類	15 コレラ	-	-	-	-
	16 細菌性赤痢	-	-	1	6
	17 腸管出血性大腸菌感染症	3	15	623	2,018
	18 腸チフス	-	-	-	-
	19 パラチフス	-	-	-	-
四類	20 E型肝炎	-	5	22	307
	21 ウエストナイル熱	-	-	-	-
	22 A型肝炎	-	1	6	49
	23 エキノコックス症	-	-	3	19
	24 黄熱	-	-	-	-
	25 オウム病	-	-	2	7
	26 オムスク出血熱	-	-	-	-
	27 回帰熱	-	-	1	5
	28 キャサスル森林病	-	-	-	-
	29 Q熱	-	-	-	1
	30 狂犬病	-	-	-	-
	31 コクシジオイデス症	-	-	-	-
	32 サル痘	-	-	-	-
	33 ジカウイルス感染症	-	-	-	-
	34 重症熱性血小板減少症候群	-	1	14	88
	35 腎症候性出血熱	-	-	-	-
	36 西部ウマ脳炎	-	-	-	-
	37 ダニ媒介脳炎	-	-	-	-
	38 炭疽	-	-	-	-
	39 チクングニア熱	-	-	-	-
	40 つつが虫病	-	1	7	136
	41 デング熱	-	-	1	4
	42 東部ウマ脳炎	-	-	-	-
	43 鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く。)	-	-	-	-
	44 ニバウイルス感染症	-	-	-	-
	45 日本紅斑熱	-	4	53	265
	46 日本脳炎	-	-	-	-
	47 ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-
	48 Bウイルス病	-	-	-	-
	49 鼻疽	-	-	-	-
	50 ブルセラ症	-	-	-	1
	51 ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	-
	52 ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-
	53 発しんチフス	-	-	-	-
	54 ボツリヌス症	-	-	-	5
	55 マラリア	-	-	5	15
	56 野兔病	-	-	-	-
	57 ライム病	-	-	3	17
	58 リッサウイルス感染症	-	-	-	-
	59 リフトバレー熱	-	-	-	-
	60 類鼻疽	-	-	-	-
	61 レジオネラ症	4	28	230	1,269
	62 レプトスピラ症	-	-	7	13
	63 ロッキー山紅斑熱	-	-	-	-
五類	64 アメーバ赤痢	-	3	50	362
	65 ウイルス性肝炎	-	4	21	128
	66 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	-	7	213	1,266
	67 急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	-	1	1	13
	68 急性脳炎	-	2	24	228
	69 クリプトスポリジウム症	-	-	1	4
	70 クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	22	118
	71 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	2	34	400
	72 後天性免疫不全症候群	1	3	97	694
	73 ジアルジア症	-	-	3	26
	74 侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	1	15	138
	75 侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	1	2
	76 侵襲性肺炎球菌感染症	2	6	118	925
	77 水痘(入院例に限る。)	-	-	27	184
	78 先天性風しん症候群	-	-	-	1
	79 梅毒	15	50	793	4,707
	80 播種性クリプトコックス症	-	-	11	90
	81 破傷風	-	-	12	61
	82 バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	-
	83 バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	14	10	85
	84 百日咳	-	1	49	415
	85 風しん	-	-	1	8
	86 麻しん	-	-	1	4
	87 薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	2	3
新型インフル	88 新型コロナウイルス感染症 ※	3,883	11,914	635,055	1,567,416

※全国データは、厚生労働省HPから引用(空港検疫及びチャーター便帰国者を除く)。広島市、全国の累積は2020年からの合計。